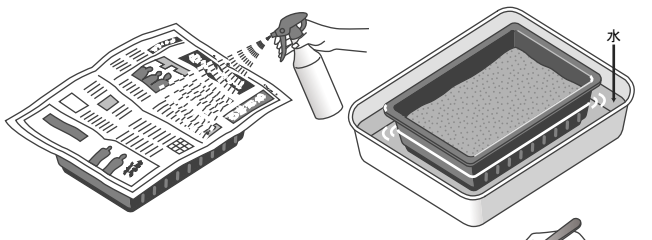
ガーデニング

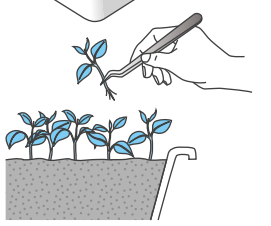
種のまき方

種まき後の管理法

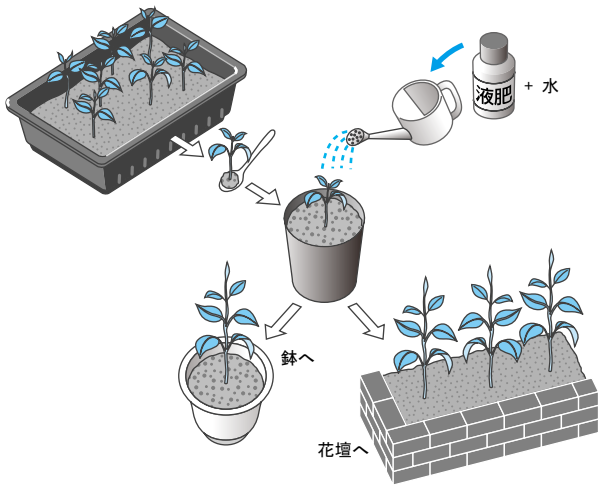
●発芽前
芽が出るまでは雨風の影響のない日陰に置いて新聞紙などをかけておきます。新聞紙の上から霧吹きで水をやるか、水をはった容器に入れて腰水状態にするなどして、乾かさないように管理してください。



●発芽後
新聞紙を取り、屋外に出してよく日に当てるようにします。液体肥料を薄めたものを２〜３日ごとに与えながら、本葉が４〜６枚出るまで育苗箱で育ててください。このとき、芽が込み合っていたら、元気な芽を残して間引きを。



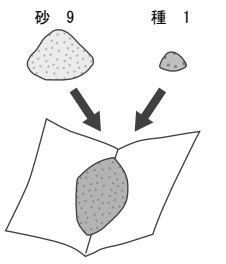
●移植
本葉が４〜６枚になったら、元気な苗を選んで竹ベラなどで根を傷めないように注意して掘り起こし、種まきしたのと同じ用土を入れたビニールポットなどに植え替えます。これは新しい根の再生を促すもので、ていねいな苗づくりをする際は移植するごとに一回り大きな鉢にするか、植え付ける間隔を広げるようにしながら２〜３回、移植をするとよいでしょう。
移植をしたら、やさしく水をかけること。また、薄めた液体肥料を水やりを兼ねて与えたり、緩効性の化成肥料を置き肥えするなどして、苗の成長に必要な養分を充分に与えることが大切です。
根が充分にはり、市販されている苗くらいの大きさに成長したら、花壇やプランターなどに定植します。



One Point Advice

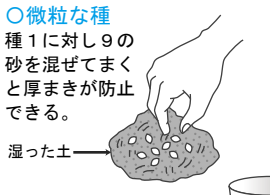
発芽率をアップするために

形が整っていて、サイズ差がなく、色ツヤがよい種を選びましょう。購入する際には必ず、有効年月や発芽率をチェックし、袋が湿っていたり、日焼けしているものは避けてください。収穫した種や早めに購入してしまった種は、まき時までビニール袋などに入れて冷暗所で保管を。冷蔵庫（5:くらい）に貯蔵するのもよい方法です。

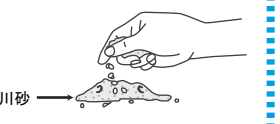


種のまき方のテクニック

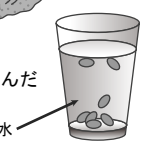
○微粒な種
種１に対し９の砂を混ぜてまくと厚まきが防止できる。



○毛が多く吸水しにくい種
湿った土でよくもんでからまく



○大きな種
一昼夜水につけ、沈んだ種を選んでまく



○外皮が固い種
川砂と一緒にもんで外皮を取ってからまく

種のまき方

植物を種から育てる場合、大切なのはまきどきを間違えないこと。同じ一年草でも寒さに弱い春まきと、冷涼な気候を好む秋まきとがありますから、もっとも適した季節に種をまくようにしてください。

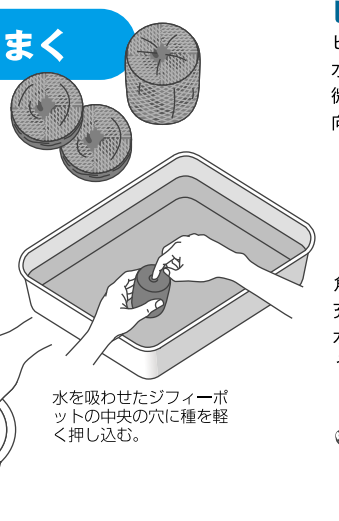
用土の選び方

発芽直後の苗は組織がやわらかく、病害虫への抵抗力がないので、清潔であることが第一。もちろん、通気性、保水性、排水性のよさも求められます。植物によって好みの土は若干異なりますが、容器にまく場合は、鹿沼土やパーライト、肥料などがブレンドされている種まき専用の培養土を使うと安心です。また、ピートモスを圧縮加工した種まき用土もお勧め。これは吸水すると膨らんで種まきに適した状態になるもので、扱いが簡単なうえ、発芽したらそのまま植えることができるので、移植を嫌う植物に最適です。

圧縮ピートにまく

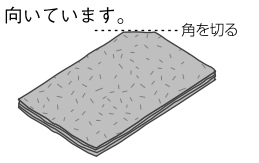
ジフィーポット

ピートを圧縮させて直径4㎝程度の薄い円盤状にしたもので、水を充分吸水させると７〜８倍にふくらみ、そのまま種をまくことができます。移植を嫌う大粒種子の発芽に最適。大粒は１つ、小〜中粒は2〜3粒入れるとよいでしょう。
発芽したら、元気な芽を１本残して間引きする。根が表面から出るくらいまで育ったら、そのまま花壇や鉢に定植する。



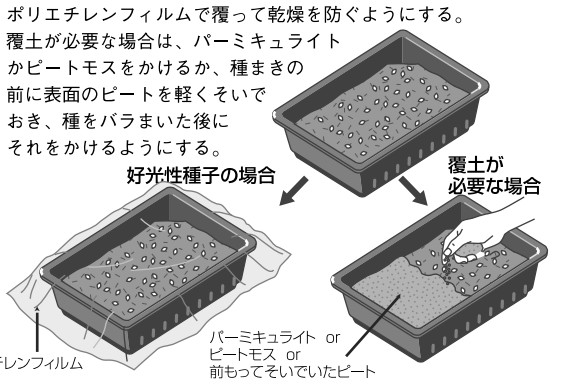
ピート板

ピートを圧縮させて板状にしたもので、吸水させると３〜４倍の厚さにふくらみます。微粒種子や好光性種子に向いています。



角を一カ所折り取り水を充分吸わせる。その後の水やりもここから行うようにする。

好光性種子の場合は、タネをバラまきしたあと覆土はせず、ポリエチレンフィルムで覆って乾燥を防ぐようにする。
覆土が必要な場合は、パーミキュライトかピートモスをかけるか、種まきの前に表面のピートを軽くそいでおき、種をバラまいた後にそれをかけるようにする。

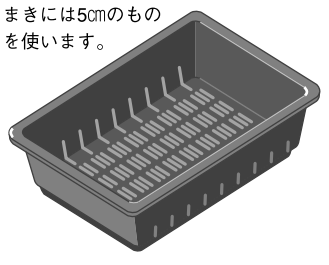


育苗箱にまく

種はその大きさ、性質によって適したまき方があるので、それに合わせてまくことが大切です。
このまき方は、花壇などに直接まく場合にも応用できます。

育苗箱

硬質塩化ビニール製の容器で、底がメッシュ状になっています。深さは５㎝、７㎝、10㎝のものがありますが、種まきには5㎝のものを使います。

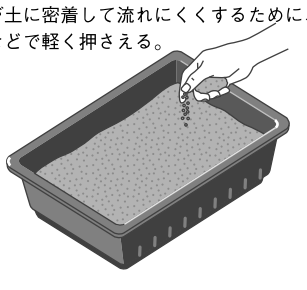


約５㎝の深さに用土を入れる。その際、板などで軽く表面を押さえて平らにしておくと、種を均一の深さにまくことができるので、発芽時期が同じになる。

●バラまき
小粒なものや発芽しやすいもの、光を好む性質がある種に適したまき方。特に小さな種の場合は、種１に対して９の砂を混ぜてからまくと厚まきを防ぐことができます。

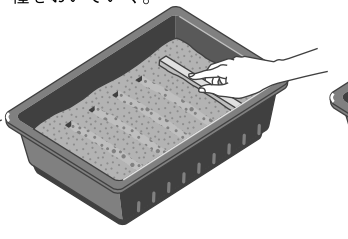
親指と人差し指で種をひねるような感じで、バラバラと均一にまく。微粒な種の場合は、紙にのせ、裏側からはじくようにしてまいてもよい。

種が隠れる程度に薄く土をかけたあと、種が土に密着して流れにくくするために、板などで軽く押さえる。

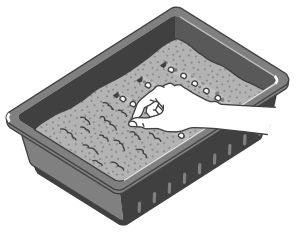


●すじまき
中くらいの大きさや、やや発芽しにくい種をまくのに向いている方法。

板か棒で土に３㎝ほど間隔をあけてすじをつけ、１㎝間隔を目安に種をおいていく。



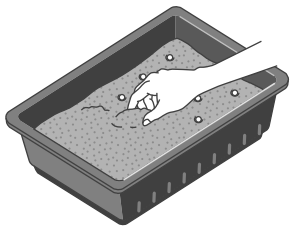
すじの両側の土をつまむようにして寄せ、約５㎜程度、土をかける。



●点まき
大きな種をまくのに向いている方法。

土に指をさして穴をあけ、その中に一粒ずつ種をまく。

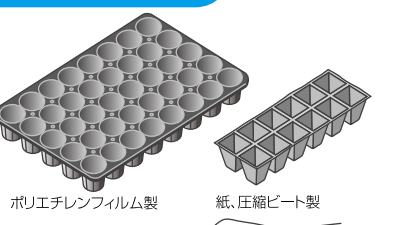
穴を埋める程度に軽く覆土する。



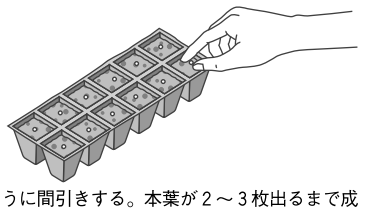
連結ポットにまく

連結ポット

薄いポリエチレンフィルム製、紙、圧縮ピートのものがあります。まとめて管理できるうえ、育苗箱で育てるよりも移植の際に芽を傷めないので、移植を嫌う植物でも安心です。

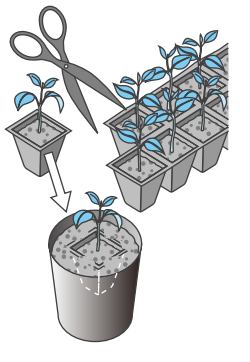
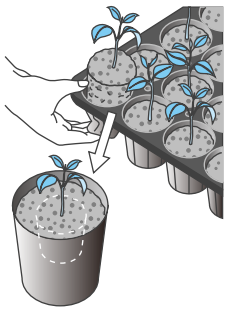


種まき用の用土をポットに入れ、１ポットに対し１〜２粒の種を指で軽く押し込むようにしてまく。圧縮ピートの場合は吸水させてから土を入れるようにする。



発芽したら、元気な芽を１本残すように間引きする。本葉が２〜３枚出るまで成長したら、ポリエチレンフィルムのものは底を指で押すようにして土ごと出して、紙や圧縮ピートのものは１ポットごと切り離してそのまま植え替える。

紙や圧縮ピートの場合



ポリエチレンフィルムの場合